

2) 琉球・沖縄の染織資料 調査研究

宮城奈々¹

キーワード：出光美術館、令和3年度出版助成、選定保存技術、手機製作記録、刺繍、黒朝衣

1. はじめに

本年度は、(1)令和3年度出光美術館出版助成による刊行物の原稿作成、(2)国選定保存技術「手機製作」保持者の大城義正氏より業務委託「手機製作記録作成刊行業務」および(3)㈱国建より業務委託「首里城復興基金事業 刺繍製作業務に係る検討資料作成等」の受託業務、(4)自主調査「芭蕉布(古着物)の繊維調査」を実施した。概要を以下に報告する。

2. 令和3年度出光美術館出版助成業務

目的：令和3年度出光美術館出版助成を受け、当財団が実施してきた色材科学調査の成果を刊行することで調査研究の成果を広く普及する。

内容：当財団を含む沖縄県内の主要機関で実施された琉球・沖縄の美術工芸文化財（王装束・紅型・織・漆器・陶器等）の色材・素材に関する科学調査研究の成果を取り纏め、令和5年度に刊行する。

実施：今年度は、企画書・原稿作成要領作成、各機関へ画像利用申請書および全執筆者へ依頼文を発送。目次確定、原稿執筆・取り纏めを実施した。
次年度は、全原稿データを取り纏め、編集・校正を経て、12月までに製本印刷し、1月に刊行予定。

3. 「手機製作記録作成刊行業務」3年事業

目的：国の選定保存技術に選定される手織製作であるが、これまで、その製作記録が十分に行われて来なかったことから、本業務において製作工程を詳細に記録し、普及用（教材用）として纏める。

内容：国選定保存技術「手機製作」保持者・大城義正氏の手機製作工程を記録し刊行物と映像に纏める。実施：今年度は製作工程の動画撮影(図1~4)。

次年度は大城氏への聞き取り、刊行物の目次・要旨および動画の編集について検討会

議を実施。

最終年度は、原稿執筆～刊行、動画は完全版と普及用を予定。



図1 材木を天日乾燥



図2 パーツごとに切断



図3 組立



図4 完成

4. 首里城復興基金事業刺繍製作業務に係る検討資料作成等

目的：首里城復興基金の活用に関する方針に基づき、首里城正殿の復元工程に合わせ、国提供の仕様をもとに首里城復元に係る製作物の製作体制、製作作業期間、製作および監修方法等についてとりまとめる。その補助業務を行う。

内容：刺繍・緞子の製作仕様について、文献資料調査と分析を行い、ワーキング会議での検討資料として提出した。

実施：単年度契約であるが、次年度は、刺繍作品の事例調査、刺繍試作、緞子の試作・本製作等予定されている。

5. 自主調査「芭蕉布(古着物)の繊維調査」

目的：芭蕉布の中でも最高級とされる黒朝衣(図1~4) 緑色朝衣は、近世琉球期の王子・按司、以下役人の公式の衣服として作られた。

しかしその製作技術は現在まで伝承されず、極細の芭蕉糸を作る技法が不可

¹琉球文化財研究室

能であるといわれ、現在まで復元されてこなかった。近世琉球期～昭和初期の芭蕉布の古着物の糸の製法を調査し、そのデータを基礎として、復元製作を行う。

内容：黒朝衣の繊維の形状・織密度・布地の写真および拡大画像を撮影し、比較分析のデータを蓄積する。

実施：今年度は、奄美大島宇検村の黒朝衣5点の調査を共同研究者の大城あやが実施、沖縄本島うるま市の個人収集家の芭蕉布8点を宮城が調査した。次年度は、これまでの調査画像データを比較分析し、報告書に纏めたい。



図1 黒朝衣（沖縄県立博物館・美術館所蔵）



図2 図1の布目（55倍）



図3 図2の拡大（220倍）



図4 糸一本（220倍）

6. 外部評価委員会コメント

財団の存在意義を高める事業であり、継続して取り組んで欲しい。(高良顧問：琉球大学名誉教授)